

中国語学習について

中国に渡航して約 2 か月が経過しました。11 月に入り朝晩の冷え込みが厳しくなってきました。暖气（ヌアンチー）と呼ばれる集中暖房が始まり、大気汚染がひどくなる機会が先月より多くなってきました。今回は中国語学習の面白さと難しさについてレポートしたいと思います。少しでも中国語に関心をもっていただけたら幸いです。

私は今年の 4 月に中国語を習い始めました。大学 2 年まではフランス語を第 2 外国語として学習していたので、全く基礎が無い状態で中国に渡りましたが、ルームメイトの滝田君をはじめ様々な人に助けていただき、何とか自力で生活できるレベルまで向上させることができました。今回のレポートでは、私なりに感じている中国語学習の壁についてまとめたいと思います。

1、「内容は大体理解できるが、発音ができない」

中国と日本は同じ漢字圏なので、書くことである程度コミュニケーションができますが、発音が全く違うため、発話を通したコミュニケーションで苦勞しています。「書ける」「読める」だけでは言語習得できたとは言えないので、中国の友人に毎日指導してもらっています。先日も街で買い物をしている際に注文が通じなかったことがあり、理解できているのに伝えられない悔しさを痛感しました。クラスにおいても教科書の内容が理解できるのに発音ができない機会が多く大変でした。

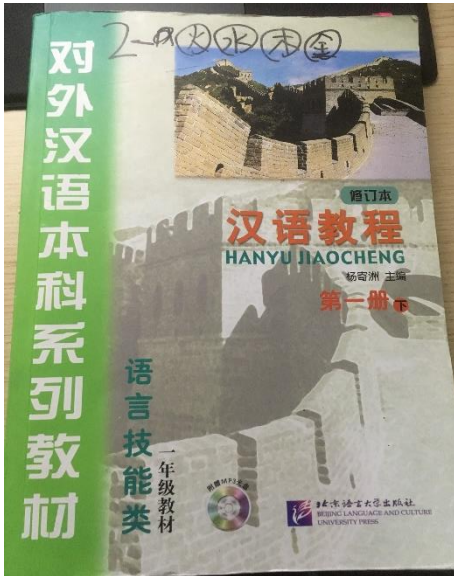
2、「書き順・漢字の形が若干違う」

中国語で使う文字は「簡体字」と呼ばれており、日本で用いられている漢字と同じものもあれば違う漢字もあります。これは学習する中で気づいたことですが、日本の漢字の書き順と中国の漢字の書き順では若干違うものが存在していました。また、簡体字では大胆に省略されているものもあり、日本語で記述する際に便利だと感じています。

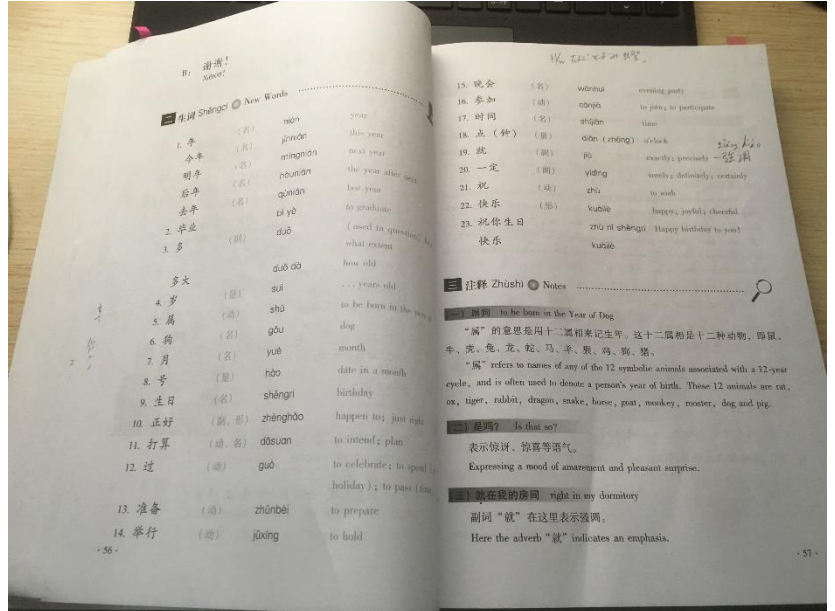
3、「母国語の教材の必要性」

これは最近気づいたことですが、母国語で学ぶ教材の有無によって、学習効率が非常に違うことに気づきました。学校で使っているテキストは、中国語と英語で書かれていますが、細かなニュアンスまでを感じ取ることに非常に苦勞していました。また私は現在初級 2 班（吉村さん、湯浅さんと同じクラス）に所属していますが、授業の進むスピードも速いことから、基礎ができていない僕にとって母国語の教材が無い状態ではほとんど理解することが難しかったです。現在では日本から中国語の教材を取り寄せ、授業の予習の段階で利用しています。

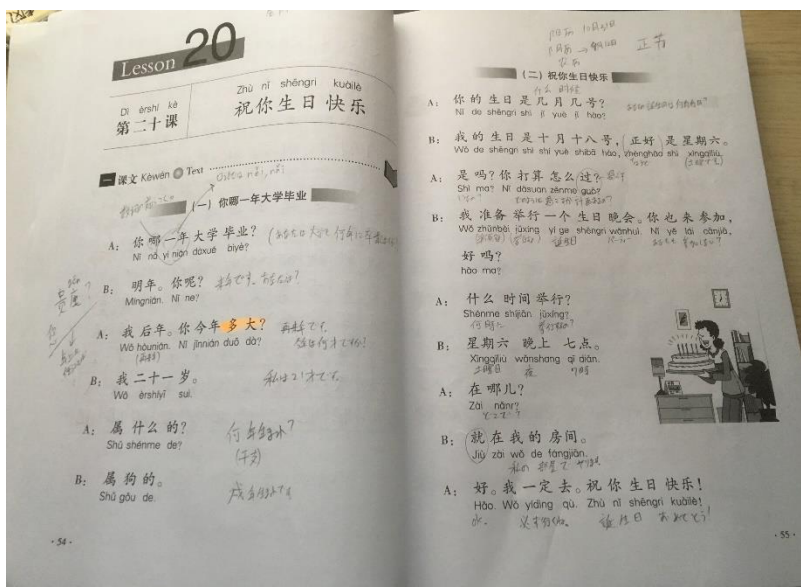
今年の12月と来年の1月にある HSK4 級の合格を当面の目標として、中国語学習を継続したいと思います。



授業で使っている教科書です。
説明は中国語と英語で書かれています。



単語の意味や説明は英語で書かれているので、
英語の勉強にもなって一石二鳥です。



日常生活ですぐに使えるような例文がたくさん載っています。